

現在、デフリンピック競技大会東京2025が開催されています。

期間は11月15日～26日までの12日間です。この大会は、1924年にフランス・パリで第一回が開催されて以来、100周年となる記念の大会です。

4年生は、総合的な学習の時間「思いやり町 光が丘」で福祉について学習を進めているからデフリンピックのこと知っていますね。

デフリンピックとは、デフとオリンピックのことです。デフとは英語で「耳がきこえない」という意味です。デフリンピックは国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」なのです。参加国は、81か国・地域。競技数は、陸上競技、サッカー、水泳、柔道など21競技です。

デフスポーツならではの見どころが紹介されていました。

例えば、デフサッカーは、聴覚障がい者のサッカーであり、競技中は補聴器を外すことが義務づけられていることから「音のない」サッカーと呼ばれています。選手は、ピッチ上では、目で合図（アイコンタクト）をしたり手話でコミュニケーションをとったりします。選手は、笛や音が聞こえないため、審判は、フラッグを使って競技をコントロールするそうです。

水泳では、スタート合図が工夫されます。音声で伝えられないため、スタートランプを用いて視覚的にスタートの合図を知らせるそうです。スタートランプは、①スタート台に乗る「白」 ②テイクユアマーク（位置について用意）「赤」 ③スタート「青」と色の変化によって選手にスタートを知らせるのです。

また、デフリンピックならではの競技「オリエンテーリング」もあります。地図とコンパスを使ってゴールを目指します。この競技は、ゴールに着くまでの速さを競うそうです。

このようにさまざまな工夫がなされ、世界の選手が集まってスポーツに取り組んでいるのです。私は、「きこえる・きこえない」「みえる・みえない」「できる・できない」…に関わらずどんな人でも輝き、共に生きる社会ができることを願っています。今日、デフリンピックのことを聞いた光が丘夏の雲小学校の皆さんも「共に生きる社会」について考えるきっかけになったら嬉しく思います。